

## 地域包括支援センター課題対応取組み報告書

名称 阿倍野区北部地域包括支援センター

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他( )
活動テーマ	「いつまでも元気で自分らしい」を支えるためのネットワークづくり
地域ケア会議から 見えてきた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居高齢者で身寄りがない</li> <li>・近隣との付き合いが全くない</li> <li>・認知症の相談件数の増加</li> <li>・地域支援者の高齢化</li> <li>・専門職の知識レベル・能力の差</li> </ul>
対象	担当する圏域の支援者、地域住民、関係機関
地域特性	地域①古い民家が多くあり一つの地域を大きな道が分断している。 地域②高齢化率は低いが相談件数が一番多い。 地域③全域にわたって高層マンションや商業ビルが建ち並んでいるがマンション居住者の高齢化が進み孤立する高齢者が増えてきている。 地域④一軒家が多く高齢化率は高いが相談があがりにくい。
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業テーマを地域住民及び関係機関と共有し活動ができる</li> <li>・地域役員と専門職のネットワークづくり</li> </ul>
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事サービス(配食サービス)、民生委員会、女性部会等へ参加し地域包括支援センターの周知活動を行った。</li> <li>・商店街の広場を活用して町会、支援者の有志で立ち上げられたミニマーケット運営の後方支援を行い、来場された方への相談、周知活動を行った。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により外出自粛を余儀なくされているひとり暮らし高齢者宅を民生委員、地域福祉コーディネーターとともに訪問し安否確認を行った。</li> </ul>
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年4月からスタートしたが新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言が発令されるなど地域活動ができない中でもできる限り、地域包括支援センターの周知活動を行った。</li> <li>・ミニマーケットは新型コロナウイルス感染症拡大に伴い3回のみで開催であったが地域住民が外出機会を制限される中で対人交流の場として大きな意味があった。地域包括支援センターとしてもその中で周知活動や相談を行い地域との顔の見える関係づくりにつながった。</li> </ul>
今後の課題	引き続き、地域包括支援センターの周知活動を行い、地域と顔の見える関係づくりを進めていく。また地域の現状を把握していくには地域の支援者とのつながりが重要であり定期的に地域で起こっている問題や課題、支援にあたる専門職ができること等を話し合える場の構築が必要である。
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月30日(金)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性(拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根差した活動の継続をすることができている。また、地域の交流の場の継続が安心感につながっている。地域性、継続性を評価したい。</li> <li>・「独居高齢者で身寄りがない」「近隣との付き合いが全くない」等の課題はアプローチが難しい課題である。地域住民と顔の見える関係づくりをしながら、課題解決に向けて取り組んでいってほしい。</li> <li>・今年度は多職種の支援関係者との連携にも活動を広げていってほしい。</li> </ul>
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見	